

**新規キャップ依存性エンドヌクレアーゼ阻害剤 S-033188 の
 良好な第Ⅱ相臨床試験結果について**
 —アジア太平洋臨床微生物感染症学会議 (APCCMI) にて副次評価項目結果を発表—

塩野義製薬株式会社（本社：大阪市中央区、代表取締役社長：手代木 功、以下「塩野義製薬」）は、当社が創製した新規キャップ依存性エンドヌクレアーゼ阻害剤 S-033188 の第Ⅱ相臨床試験結果をオーストラリア ビクトリア州 メルボルンで開催中の第 16 回アジア太平洋臨床微生物感染症学会議（以下「APCCMI」）において発表しましたので、お知らせいたします。

本試験は A ならびに B 型インフルエンザウイルス感染症患者 400 例を対象に S-033188 の有効性および安全性を確認するプラセボ対照比較試験です。主要評価項目であるインフルエンザ症状消失期間の短縮、副次評価項目の 1 つであるウイルス量の減少、および、安全性に関する結果についてはすでに報告いたしました（2016年8月29日の [リリース文](#) をご参照ください）、本薬剤に対して世界中の先生方より大きな関心と期待が寄せられております。APCCMI にて今回発表された結果の概要は次の通りです。

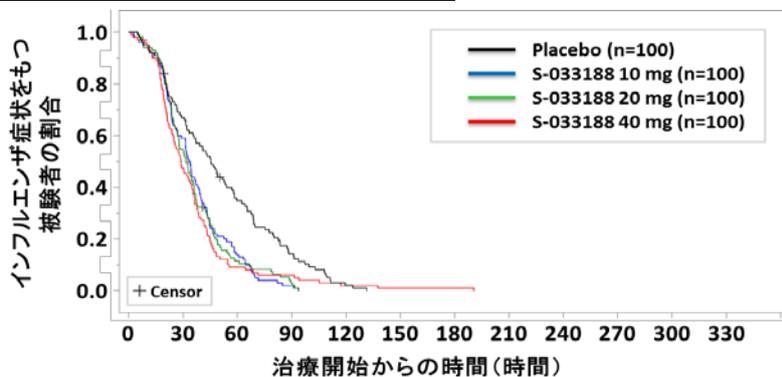
- S-033188 (40mg 単回 経口) は、平熱に回復するまでの時間を有意に短縮しました。(p<0.001) 【参考図表】
- S-033188 (40mg 単回 経口) は、全身症状（熱っぽさまたは悪寒、頭痛、疲労感、筋肉または関節の痛み）が消失するまでの時間も有意に短縮しました。(p<0.001)
- S-033188 (40mg 単回 経口) は、呼吸器症状（鼻づまり）が消失するまでの時間も有意に短縮しました。(p<0.001)

S-033188 は、既存のノイラミニダーゼ阻害剤とは異なるメカニズムでインフルエンザウイルスの増殖を抑制し、単回の服用でインフルエンザウイルス感染症の治療完結が期待される新規化合物です。また、昨年 10 月に厚生労働省の先駆け審査指定制度の対象品目に指定されています。現在グローバル第Ⅲ相試験を実施しており、日本においては最速で 2017 年度内の申請を目指しております。また、日本と台湾を除く全世界における開発は F. Hoffmann-La Roche Ltd.（本社：スイス バーゼル、CEO：Dr. Severin Schwan）との提携下で進めていく予定です。

塩野義製薬は、感染症領域を重点領域のひとつに定め、世界を感染症の脅威から守るため感染症治療薬の創製に注力しております。これからも人々の健康を守るために必要な感染症の治療薬を、世界中の患者さまのもとにいち早くお届けすることができるよう、努めてまいります。

以上

参考図表：平熱に回復するまでの時間



【お問合せ先】

塩野義製薬株式会社 広報部

TEL：06-6209-7885 FAX：06-6229-9596